

3 7 文化芸術振興事業に対する支援措置の強化について

(文化庁)

【内容】

- (1) 地方自治体等の文化芸術振興事業に対する一層の支援を図ること。
- (2) 世界の文化芸術の発展に貢献し、魅力ある地域づくりにつながる総合的・複合的な国際芸術祭の取組に対する支援制度の充実を行うこと。

(背景)

平成23年2月、国は「文化芸術の振興に関する基本的な方針」(第3次)を策定し、文化芸術で国づくりを進める「文化芸術立国」を目指し、社会を挙げての文化芸術振興などの基本的視点及び重点的取組事項が決定された。

同方針では、地方公共団体においては、それぞれの地域の実情を踏まえた、特色ある文化芸術振興の主たる役割を担うことが期待されており、それに対し国は必要な支援や情報提供等の所要の措置に努める必要があるとしている。

厳しい経済情勢のなか、社会を挙げての文化芸術振興のためには、地域の文化芸術振興の取組に対する一層の支援を図ることが必要である。

そのため、現在国が行っている、新進芸術家等の人材育成や芸術団体・劇場等が行う優れた芸術創造活動に対する支援、次代を担う子どもの文化芸術体験事業の実施等、豊かな文化芸術の創造と人材育成に対する支援のさらなる拡充を図ることが必要である。

また、本県では、平成22年(2010年)8月から2か月間、現代美術を基軸としつつ、舞台芸術も併せて展開する国内最大級の規模の総合的・複合的な国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」を開催し、美術関係者を始め多方面の方々から、国際美術展としてのクオリティの高さ、舞台芸術も併せて展開した複合性、まちなかの多様な場所での展開などが高く評価された。

今後は、定期的を開催することにより、あいちトリエンナーレを世界に発信するアート・フェスティバルに育成していきたいと考えている。

国の平成23年度予算において、我が国で開催される中核的な国際芸術フェスティバル(横浜トリエンナーレ、東京国際映画祭)に対して戦略的かつ重点的な支援を行う「国際芸術フェスティバル支援事業」が新規で措置された。

これら支援先に明示された事業に限ることなく、あいちトリエンナーレのような大規模で総合的・複合的な取組を行う国際芸術祭も対象とし、かつ、イベント開催も含めた準備期間を含む芸術祭全体に対する助成制度として拡充していくことが望まれる。

(参 考)

あいちトリエンナーレ2010の開催実績

テ ー マ : 都市の祝祭 Arts and Cities

開催時期 : 平成22年8月21日(土)から10月31日(日)まで(72日間)

事業内容 : 現代美術を基軸としつつ、舞台芸術も併せて展開(会場の持つ複合機能を活用)
普及・教育プログラムの展開や祝祭感の創出

会 場 : 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場他

運営主体 : あいちトリエンナーレ実行委員会

芸術監督 : 建畠 哲氏(開催時:国立国際美術館館長)

来場者数 : 572,023人

経済波及効果 : 78.1億円

チケット販売枚数 : 186,500枚(国際美術展176,228枚、舞台芸術10,272枚)



キッズトリエンナーレ



会場:愛知芸術文化センター



平田オリザ+石黒浩研究室(大阪大学)

《ロボット版『森の奥』》



草間彌生《命の足跡》

【国際芸術フェスティバル支援事業(3億円:新規)】

- ・ アート・トリエンナーレや国際映画祭といった我が国で開催される中核的な国際芸術フェスティバルに対し戦略的かつ重点的に支援を行うことにより、これらを文化芸術の世界的拠点として育成し、世界の文化芸術の水準向上に大きく貢献する。

支援件数2件(横浜トリエンナーレ、東京国際映画祭)